# スリランカ高校生招へいプログラム カタランカ Cross Asia 2014 実施報告



認定 NPO 法人 地球市民の会

# <u>実施内容</u>

概要: スリランカの高校生を佐賀県に招聘し、学びと交流のプログラムを実施した。人と人との触れ合い、学び合いを通して「国際的な広い視野」や「地域を大切にする心」をもった若者を育み、日本とスリランカ、そして世界への友好の輪を広げていくことを目的とする。2012年に引き続き、2回目の実施となる。

幅広く一般市民の方々が参画できる場をつくることにより、佐賀に於ける国際交流や地域づくり活動の活性化、地域全体の意識向上に繋げていきたい。

招聘者:高校生6名、引率1名

No.	写真	名前	年齢	所属
1		CHANDANI UDAKUMBURA HEWAGE (チャンダニ)	49歳	サンガミッタ女子校校長
2		SASINI HANSIKA SOORIARACHCHI (サシニ)	15歳	11年生 チームリーダー
3		RANSINI HASHARA GUNARATHNA (ランシニ)	15歳	11年生
4		KAVEESHA KAVINDHI DEWALEGAMA GAMACHAR IGE (カヴィーシャ)	16歳	11年生
5		SAJINI BHAGYA PIYARATHNA (サジーニ)	16歳	11年生
6		CHARUNI DIMALKA SEWWANDI SINGAPPULI L IYANAGE (ディマルカ)	17歳	12年生
7		PONARASA ARACHCHIGE MADUSHANI CHATHUR IKA KULATHUNGA (マドゥシャーニ)	18歳	13年生

受入実行委員:大学生 18名 /社会人 3名 /地球市民の会 7名

日程:2014年9月12日(金)~9月21日(日)

スケジュール:

日にち	曜日	内容	宿泊
9月12日	金曜日	福岡空港へ到着	サンシティホテル
9月13日	土曜日	<ul><li>●オリエンテーション</li><li>●佐賀市内散策</li><li>(佐賀大学・佐賀大学美術館・佐賀県立博物館・佐嘉神社)</li><li>●ウエルカムパーティー</li><li>(古賀空手道場)</li></ul>	ホームステイ
9月14日	日曜日	<ul><li>●佐賀城見学</li><li>●佐賀県立佐賀商業高校訪問、ボランティア部との交流</li></ul>	ホームステイ
9月15日	月曜日	●終日:ホストファミリーと家庭内交流	ホームステイ
9月16日	火曜日	<ul><li>●佐賀商エビル訪問</li><li>(佐賀市協働推進課・佐賀県国際交流協会)</li><li>●保育園ひなた村自然塾訪問、園児との交流</li><li>●大学生との宿泊体験</li></ul>	北山少年自然の家
9月17日	水曜日	<ul><li>●古湯女将会との加工品づくり体験(柚子ごしょう作り体験)</li><li>●佐賀県立佐賀北高校訪問、交流プログラム</li><li>(英語の授業体験、書道体験)</li><li>●日本文化体験(浴衣を着よう!)</li></ul>	古賀空手道場
9月18日	木曜日	●スリランカの学生と電車の旅 (武雄神社、大楠見学、武雄図書館、陶芸体験) ●英語でワークショップ	古賀空手道場
9月19日	金曜日	<ul><li>●長崎へ鶴を届けよう!</li><li>(出島、原爆資料館見学、平和記念公園)</li></ul>	古賀空手道場
9月20日	土曜日	<ul><li>●スリランカフェスティバル (ほほえみ館)</li><li>●さよならパーティー (古賀英語道場)</li></ul>	古賀空手道場
9月21日	日曜日	福岡空港から帰国	

# 主な活動詳細:

9月13日(土)

#### ◆佐賀市内散策

まずは、佐賀のことを知ってみよう!と、佐賀大学・佐賀大学美術館・佐賀県立博物館・佐嘉神社を訪問した。

佐賀大学では、スリランカ留学生との交流を行い、佐賀で学ぶ先輩から、勉強や生活へのアドバイスをもらったり、学生生活の様子を聞いた。また、実際の研究室も案内してもらった。高校生たちは、目を輝かせながら大学生から話を聞き、興味津々であった。これから大学進学を目指す高校生たちにとって、日本で活躍する先輩との出会いは、将来の考えも広がる機会となった。



(留学生の研究室にて最先端の技術に触れる)

お昼から実行委員も合流し、交流をしながら佐賀市内を回った。実行委員がスリランカの高校生を案内したい場所を選び、お堀周辺を歩きながら、佐賀の雰囲気を楽しんだ。佐賀の美術館や、博物館、佐嘉神社も見学し、日本の文化を楽しんだ。佐嘉神社では、日本のお参りの作法を学んだりと、自国の文化との違いを感じた。



(コミュニケーションをとりながら移動中)



(神社で日本のお清めの方法を学ぶ)

# 9月13日(土)~16日(火)

# ◆ホームステイ (ホームステイ受入家庭: 佐賀市・藤津郡・ 小城市・神埼市各1家庭)

佐賀県内の家庭へ、3泊4日間でホームスティを行った。ホストファミリーの方々に本当の家族のように迎えてもらい、日本にも家族が出来た。各家庭で、スリランカ料理と日本の料理の交流をしたり、果物狩りに出かけたりと、言葉や文化の壁を越えて楽しい4日間を過ごした。

(ホストファミリーと一緒に)



#### ≪感想≫

ホストファミリーより:「日本しか知らなかったので、スリランカの生活や食べ物など知ることが出来てよかった。佐賀の様々な景色をもっと見せてあげたかったと思う。あと1日、家族との自由な時間が欲しかった。」 スリランカ高校生より:「家族の皆さんが、本当の家族のように接してくれ、日本にお母さんが出来た。」

# 9月14日(日)

## ◆佐賀県立佐賀商業高等学校訪問 (受入協力:教頭、教師2名、ボランティア部部員28名)

ボランティア部を中心に、国際交流プログラムを組んでいただいた。英語で学校紹介をしたり、文化発表で踊りを披露しお互いのことを学びあった。同じ高校生として、進学や就職のこと、また校則等の日常生活など、お互いに違う面や共通点もあり、気付きを得る時間となった。折り紙による交流も実施し、今回プログラムの終盤に長崎へ訪問すると聞いたボランティア部の皆さんが、「長崎へ、もって行ってください」と 1000 羽近くの折鶴を用意してくれた。ボランティア部の生徒が身振り手振りで折り方を教えてくれるなど、笑顔での交流となった。



(折り紙を一緒に折りながら、交流を楽しむ)



(多くの学生さんに受け入れていただいた)

# 9月16日(火)

# ◆保育園ひなた村自然塾訪問

園児や保育士の方の交流を通じ、日本の教育の様子を知る機会を得た。自国と日本の子どもたちの過ごす環境の違いに驚く場面もあった。園児たちも興味津々に、スリランカの学生たちに、スリランカのことや、家族のことを聞いたり、手をとって園内を案内してくれた。園長先生より、「今回の交流は、スリランカの学生にはもちろん、園児たちにとっても、幼い頃からいろんな国の人と出会う機会を得、いい学びになる」と話してくれた。

#### ◆北山少年自然の家にて宿泊体験

受入実行委員と共に、1 泊 2 日で宿泊体験を実施した。一晩 寝食を共にすることで、実行委員とスリランカ学生との仲も 深まる機会となった。野外炊飯や、大浴場も体験し、スリラ ンカの学生も最初は戸惑いながらも、同世代の実行委員に引 っ張ってもらい、日本の文化を体験することができた。

「大浴場は、絶対入りたくないと思っていたが、みんなで 広いお風呂に入ることが、こんなに楽しいとは思わなかっ た。」との感想もあった。



(園児たちに、スリランカの童謡を披露した)



(一晩を過ごし、一緒に朝食を)

#### 9月17日(水)

## ◆古湯にて柚子ごしょう作り体験

佐賀市富士町の古湯温泉女将会に受入をしていただいた。 当会の国内での中山間地活性化事業の活動地でもある。佐 賀の文化を学ぶ一環として、九州の一般的な調味料であり、 富士町の特産品でもある柚子ごしょうを、女将さんと一緒 に作った。柚子を取るところからさせていただき、地域の 風景を見ながら日本にも様々な地域があることを学んだ。 古湯の女将さんから、「海外の人をこのように体験で受け入 れたのは初めてだったので、心配なこともあったが、スリ ランカのことも知れたので楽しかった。また、こうした受 入をしてみたい。」との声をいただいた。



# ◆佐賀北高校訪問

英語の授業への参加と、書道部による書道体験を行った。授業では2年1組に入り、両国の学生が英語でのプレゼンを行い、その後グループに分かれてのワークとして、事前に高校生が考えて作成した英語での質問やクイズを行った。担当教諭からは「実際に英語を使って同年代の子とコミュニケーションを取る経験が出来たことは、いい学びになった。スリランカの学生たちのプレゼンテーションの中身の濃さにも驚いた。」との感想を得た。

部活動の時間帯で、書道部に受け入れていただき、書道の体験と、うちわ作りを行った。佐賀北高校の書道部は全国でも有名で、全日本高校書道コンクールで19連覇を続ける優秀な成績を残している。書道という日本の文化を通じた交流に、スリランカの子達は「言葉で、芸術を表現する書道は素晴らしいと思った」との感想が出た。、また書道部の担当教諭からは「生徒たちは、日ごろから文字でどのように気持ちを表現していくかを学んで練習している。スリランカの子たちに伝わっていたようでうれしい。」と話してくれた。



(英語でのグループワーク)



(書道を楽しく体験させてもらった)

#### 9月18日(木)

#### ◆武雄への電車旅

実行委員が中心に行程を考え、武雄への電車での小旅行を実施した。公共交通機関を利用し、武雄市を訪問、大楠、武雄図書館の見学、陶芸体験を行った。

武雄には、三大大楠がありそのうちの武雄大楠を見学した。佐賀に住む学生の実行委員も訪れたことがなかった子もおり、「佐賀にこんな場所があるなんて知らなかった。このプログラムを通じて、佐賀に詳しくなれた」と話した。陶芸体験では、日本一の長さを誇る飛龍窯工房にてミニ灯篭彫り体験を行った。陶芸を習いに来られている一般の方の作業工程も見学させていただき、佐賀の芸術に触れる体験となった。



## ◆英語でワークショップ(参加者 スリランカ学生6名/日本人高校生3名/大学生1名/社会人1名)

2 国間で共通に通じ合える英語によるワークショップを行った。「理想とするこれからの国」をテーマに両国の学生がプレゼンテーションを行い、グループに分かれて「理想の国のために、日本とスリランカで共にできること」を話し合った。

プレゼンテーションでは、日本側は家族形態の変化やグローバル化の波に焦点を当て、スリランカ側は自国の世界遺産や自然などのいい面を取り上げつつも、法整備や公共的な支援の充実の必要性が話題に上がった。グループに分かれて話す中で、スリランカの子達が日本で感じた「ホスピタリティ」や、「タイムマネジメント」がほとんどのグループで話題に上がった。一方で日本の学生の多くは、日本人の英語能力の低さを問題に上げていた様子であった。あるグループでは、最後に日本政府の多額の借金が話題に上がり、スリランカの子が驚く場面もあった。しかし最終的に、「若い世代が問題を認識し、意識を高めることが、将来へ繋がる。」「スリランカと日本の若い世代の私たちが、こうして問題を共有することで、その問題に両国で取り組むことができる」との結論が出た。

ワークショップ後、両国の学生からの感想を得たが、日本の学生の多くは、「もっと英語で自分の意思を伝えられるようになりたい」との意見が多かった。スリランカの高校生も、「こうして国を超えて、話し合えることが第一歩だと思った」との感想が出された。





# 9月19日(金)

#### ◆長崎へ鶴を届けよう!

現地からの事前アンケートで多かったのが、長崎を訪れたいとの意見であった。来年が終戦から 70 周年の節目を迎えること、また佐賀の学生の「佐賀で作った千羽鶴を、スリランカのみんなと長崎へ届けたい」との思いから、長崎へ訪問した。大学生やボランティアの方も一緒に、長崎原爆資料館を訪問した。佐賀の学生の中には、初めて資料館を訪れる子もおり、皆が真剣に展示を見学した。スリランカの学生たちは、多くの資料を写真やムービーに収め、スリランカに持ち帰るといっていた。スリランカでも、原爆投下を歴史で学ぶが、「学んでいた以上に、多くの人が傷ついたこと



を知った。終戦後もたくさん苦しんだ人たちがいたことを知らなかった」との感想が出た。

見学後、佐賀商業高等学校の学生さんたちと、実行委員で作成した千羽鶴を供えた。生憎の雨であったが、平 和祈念公園も訪問した。来年で終戦から 70 年を迎えるが、スリランカと佐賀の若者どちらにとっても、「平和」 を考える機会となった。

# 9月20日(土)

#### ◆「スリランカフェスティバル」(参加者:実行委員16名、一般14名、地球市民の会2名)

スリランカと日本の文化交流として、フェスティバルを実施した。身近なものからの国際理解を目指し、「食」と「遊び」をテーマとした。日本のおにぎりとだご汁、スリランカの食文化としてスパイスからカレーを作り、皆で異なる文化を楽しんだ。途中、スリランカの学生が、踊りと劇を披露する場面もあった。

食事後は両国がそれぞれ遊びの紹介を、共に楽しんだ。大学生が主体となって計画・実行したが、日本の遊びの紹介場面では、年配の参加者がおはじき遊びを教えてくれるなど、日本人同士の世代を超えた交流もみられた。 一般参加者の中には、高校訪問時に受け入れていただいた生徒さんにもお越しいただき、「国を超えて関われることが、とても楽しかった」との感想もあった。





# ウエルカムパーティー及びさよならパーティー

9月13日にウエルカムパーティー、9月20日にさよならパーティーを実施した。実行委員、ホストファミリー、当会会員を中心に、各回50名以上が集い、執り行われた。

ウエルカムパーティーでは、自己紹介から始まり、ホストファミリーとの対面やレクレーション等が行われた。 さよならパーティーでは、スリランカの高校生や実行委員による出し物が行われた。



(ホストファミリーとのどきどきの対面)



(ボランティアさんから風船の花束)



(緊張も吹き飛んだウェルカムパーティー)



(皆さんにスリランカの演舞を披露)



(最後はみんなで笑顔で大合唱)



(たくさんの方が、お別れに来てくれました)

#### 協力者・団体:

佐賀市国際交流室、佐賀市協働推進課、佐賀大学留学生、佐賀城本丸歴史館、ばく麺処いっせい、佐賀県立佐賀商業高等学校、佐賀県立佐賀北高等学校、保育園ひなた村自然塾、麺処いっせい、北山少年自然の家、富士町古湯女将会、ほほえみ館、古賀空手道場、古賀英語道場、夢の学校、ホストファミリーの皆さま、地球市民の会会員、スリランカ招聘実行委員会

#### 後援:

佐賀県国際交流協会、佐賀市、佐賀市国際交流協会

#### 5、成果の公表(予定も含む)

- 佐賀新聞社及び西日本新聞社に記事掲載(別添参照)
- ・えびすFMの当会番組にてプログラムの様子を放送。 (9月)
- ・スリランカ人高校生による、現地の学校での報告会開催予定。
- ・スリランカ現地にて、報告書の発行予定。
- ・地球市民の会会報「ネットワークテラ」で成果報告予定。(当会会員ら約650名へ配布)
- ・地球市民の会ホームページ上で成果報告を掲載準備中。

# 6、事業の成果

2012年の実施に引き続き、今回も多方面からの市民参画やご協力を頂き実施が出来た。事業の目的である「国際的な広い視野や地域を大切にする心をもつ若者を育み、友好の輪を広げること」は、下記のように広く達成できた。

- ・スリランカの高校生たちは、佐賀で多くの人と出会い刺激を受けることで、日本のこと、また佐賀という地域の理解を深め、将来への視野を広げる機会となった。帰国後は、それぞれの日本での体験を発信することで、家族や友人、地域への波及効果を期待する。
- ・両国の若者が、自国の文化や自身の考えを発信し、共有する機会を得ることで、他国の理解だけでなく、自 分たちの国や地域を見つめなおす機会にもなり、発表者の自信にも繋がった。
- ・佐賀側の受入を実行委員形式で実施することで、10代~20代を中心に20名の参加を得た。国際交流や、NGO の活動に関わるのが初めてのメンバーも多く、彼らが市民活動に興味を持ち、またその分野の人びととの繋がりを得るきっかけとなった。また、佐賀という地域を考え、プログラムを組んでいくことで地域の魅力を再発見する機会となった。
- ・述べ350名を超える参加を得た。スリランカ人と日本人の交流だけでなく、日本人同士の交流の場ともなった。年齢や所属を問わず多くの参加を得、新しい地域の繋がりを広げることができた。

# (その他のプログラム)



(佐賀城本丸歴史館見学)



(佐賀商工ビル・佐賀市協働推進課訪問)



(佐賀商工ビル・佐賀県国際交流協会訪問)



(ボランティアさんと浴衣体験)